

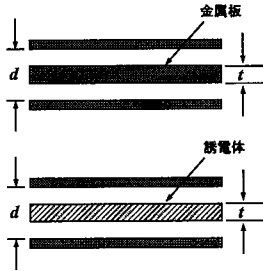
2017年度 第1回 E科アセスメントテスト 電磁気学 2017年9月25日(月)

注意事項：計算過程と単位も必ず示すこと。解答欄が不足するときは裏面（裏面へと記載）を使用すること。

真空中の誘電率および透磁率をそれぞれ ϵ_0, μ_0 とする。計算問題においては有効数字2桁で計算すること。

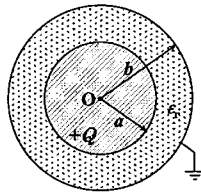
- [1] 図のように真空中におかれた面積 S の平行平板コンデンサの内側へ厚さ t ($d > t$) の金属板を挿入したとき（静電容量 C_1 ）と、比誘電率 ϵ_r で同じ厚さ t の誘電体を挿入したとき（静電容量 C_2 ）の静電容量 C_1 および C_2 をそれぞれ求めよ。

解答欄



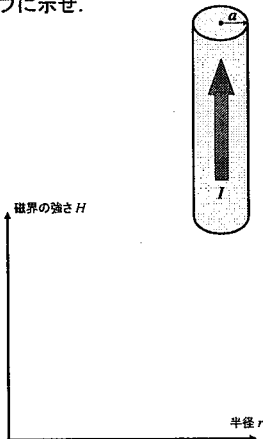
- [2] 内径、外径がそれぞれ a, b ($a < b$) の導体球間に誘電率 ϵ_r の誘電体を詰め、内球の表面に $+Q$ の電荷を一様に分布させたとき、半径 r (ただし、 $a < r < b$) の球面上での電界強度 E 、内外導体球間の電位差 V および静電容量 C を求めよ。ただし、外球は接地しているとする。

解答欄



- [3] 図のように半径 a の円柱形導体内を電流 I が中心軸方向に一様かつ一定の電流密度で流れている。このとき、円柱形導体内外の磁界 H を求めよ。また、その解答をもとに半径方向 r に対する磁界の強さの概形をグラフに示せ。

解答欄



- [4] 真空中に距離 a 離れて平行に並んだ導線 A, B があり、ともに電流 I が同じ方向に流れている。電線 A が B に作る磁界の大きさ H と電線 B が単位長さあたりを受ける力 F を求めよ。

解答欄

- [5] 真空中に導線を5巻して作った円形の回路がある。時刻 t でこの回路を貫く磁束 $\phi(t)$ は、 $\phi(t) = \phi_0 \cos \omega t$ で時間変化する。回路に生じる誘導起電力 V_e と、 $\phi_0 = 0.1 \text{ Wb}$, $\omega = 100 \text{ rad/s}$ のときの誘導起電力の最大値 $V_{e(\text{max})}$ を求めよ。

解答欄

- [6] 静電界・静磁界の公式に関する次の空所を埋めよ。電荷 q 、磁荷 m 、電荷密度 ρ 、真空中の誘電率 ϵ_0 、誘電率 ϵ 、真空の透磁率 μ_0 、透磁率 μ とする。解答はスカラー量でも良い。

- クーロンの法則（帯電体間の力 F ） ●クーロンの法則（磁極間の力 F ）

$$F = \frac{1}{4\pi\epsilon r^2}$$

$$F = \frac{2}{4\pi\mu r^2}$$

- 電界 E での帯電体に作用する力 F

- 磁界 H での磁極に作用する力 F

$$F = 3$$

$$F = 4$$

- 電束密度 D と分極ベクトル P

- 磁束密度 B と磁化ベクトル M

$$D = \epsilon E = 5 + P$$

$$B = 6 = \mu_0 H + M$$

- ガウスの法則（積分形）

- ガウスの法則（積分形）

$$\epsilon \int_S E \cdot ndS = 7$$

$$\mu \int_S H \cdot ndS = 8$$

- ガウスの法則（微分形）

- ガウスの法則（微分形）

$$\text{div } D = 9$$

$$\text{div } B = 10$$

解答欄

1		2	
3		4	
5		6	
7		8	
9		10	

解答上の注意：計算および解答は2桁精度で行って良い。√記号、分数は残しても良い。

問題1.

図1の回路の合成抵抗 R (a-b 間の抵抗) を求めよ。

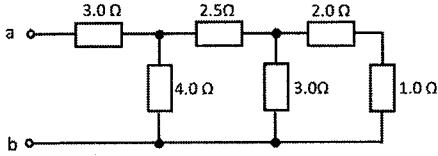


図1. 問題1の回路

$R =$ _____ Ω

問題2.

図2の回路の抵抗 R_2 を流れる電流 I を求めよ。

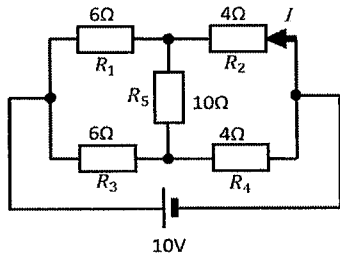


図2. 問題2の回路

$I =$ _____ A

問題3.

図3の回路において、電源角周波数を ω として以下の問いに答えよ。

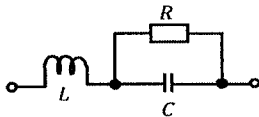


図3. 問題3の回路

(1) 回路の合成インピーダンス Z を求めよ。

$Z =$ _____ Ω

(2) 回路の共振角振動数 ω_1 を求めよ。

$\omega_1 =$ _____ rad/s

(3) $\omega = \omega_1$ のときの回路のインピーダンス ZI を求めよ。

$ZI =$ _____ Ω

問題4.

図4の回路において抵抗 R は 15Ω 、コンデンサの容量リアクタンス X_C は 20Ω である。電源電圧 E が 60V のときにコンデンサを流れる電流の大きさ $|I_X|$ が 3.0A になった。このとき、以下の問いに答えよ。ただし、電流 I は電圧 E よりも位相が遅れているものとする。

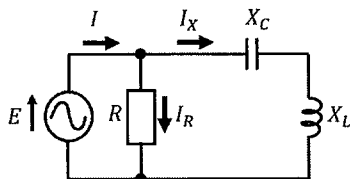
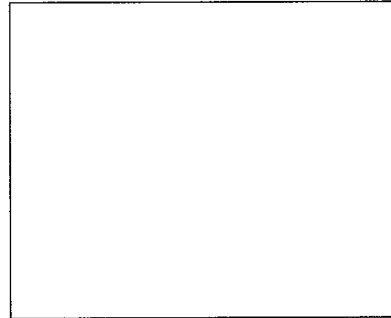


図4. 問題4の回路

(1) 抵抗を流れる電流 I_R を求めよ。

$I_R =$ _____ A

(2) I, I_R, I_X, E の関係をフェーザ図で示せ。



(3) I を求めよ。

$I =$ _____ A

(4) X_C と X_L の合成インピーダンス Z_X を求めよ。

$Z_X =$ _____ Ω

(5) コイルのリアクタンス X_L を求めよ。

$X_L =$ _____ Ω

問題5.

図5に示す変成器の回路について以下の問いに答えよ。ただし、入力電圧の角周波数を ω とする。

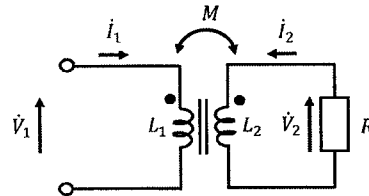


図5. 変成器回路

(1) \dot{V}_1, \dot{V}_2 を i_1, i_2 を用いて表せ。

$\dot{V}_1 =$ _____

$\dot{V}_2 =$ _____

(2) i_1, i_2 の関係を求めよ。

$i_2 =$ _____

(3) 一次側から見たインピーダンス Z を L_1, L_2, M を用いて表せ。

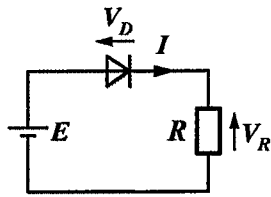
$Z =$ _____

電子回路 アセスメントテスト

2017. 9. 25

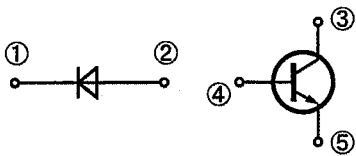
1. 図の回路について、定電圧近似により電流および各電圧を求めなさい。ただし、 $R = 100 \Omega$ とする。

[回路方程式]



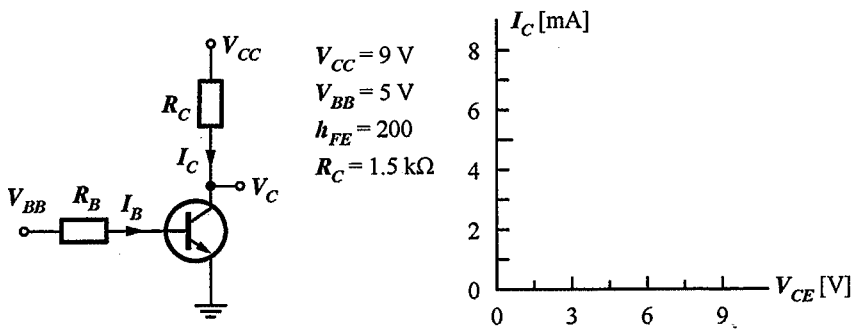
E (V)	V_D (V)	V_R (V)	I (mA)
3.0			
1.5			
0.5			
-5.0			

2. 下図の回路記号に適切な端子名を記しなさい。



①	
②	
③	
④	
⑤	

3. 下図の回路に関して以下の設問に答えなさい。



(1) V_{CC} と R_C で決まる、負荷線を書きなさい。

(2) $I_C = 3.6 \text{ mA}$ となるようにするには、ベース電流 I_B をいくらにすればよいか。

(3) ベース電流に関する回路方程式を書き、それを解いて、抵抗 R_B の値を求めなさい。ただし、ベース電流 I_B の値は (2) で答えたものであるとする。

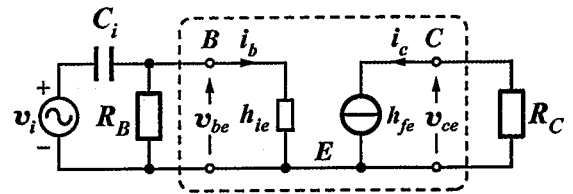
[回路方程式]

(4) さらにこのとき、コレクタの電位 V_C を求め、回路の動作点を \bigcirc で示しなさい。

[回路方程式]

4. トランジスタの等価回路に関する以下の問いに答えなさい。

(1) 図のように、結合コンデンサ C_i で交流信号源 v_i が接続されている、小信号等価回路で成立する関係を記しなさい。ただし、結合コンデンサの値は十分に大きいとしてよい。



$v_i =$

$v_{be} =$

$i_c =$

$v_{ce} =$

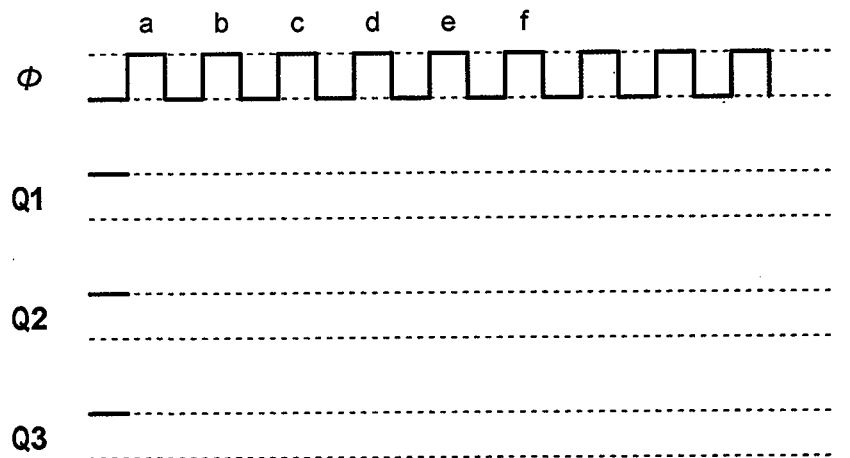
点線内の関係は、回路図の点線内のもので、書き表しなさい。

(2) 上で得た関係式から、電圧増幅度 A_v を表す式を導きなさい。また、その値を求めなさい。ただし、計算に必要な値は、以下の値と問3の値を使用しなさい。

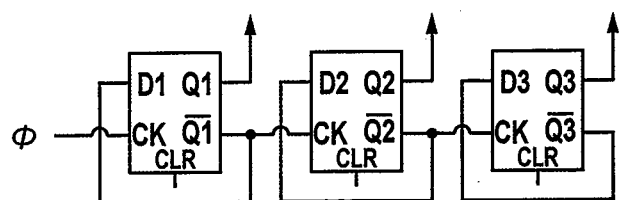
$h_{ie} = 1.5 \text{ k}\Omega$ 式 値

$A_v =$

5. 図のようなクロック信号 ϕ を下の回路に入力した時の、各フリップ・フロップ (FF) の出力波形を描きなさい。ここで、FF はクロック信号の立ち上がりで、入力信号 (D) を取り込み、出力する ($Q = D$) ものとし、CLR 信号は、クロック信号とは無関係に $CLR = 1$ の時、出力 Q を 0 にするものとする。



この回路に部品を加え、クロック信号が 5 周期で元の状態に戻る (例えば、 $f = a$ となる) ようにするには、どのようにすればよいか、下図に書き加えなさい。



アセスメント・テスト 電気数学

1. 以下の下線部に適する文字を 内より選び、番号を記せ。ただし、同じ番号を何度使ってもよい。また、 j は虚数単位である。

① α ② β ③ $\cos \alpha$ ④ $\cos \beta$ ⑤ $\sin \alpha$ ⑥ $\sin \beta$

- (a) $e^{-j\alpha} = \underline{\hspace{1cm}} -j \underline{\hspace{1cm}}$
 (b) $\cos(\alpha - \beta) = \underline{\hspace{1cm}} + \underline{\hspace{1cm}}$
 (c) $\sin(-2\alpha) = -2 \underline{\hspace{1cm}}$
 (d) $2 \sin\left(\frac{\alpha+\beta}{2}\right) \cos\left(\frac{\alpha-\beta}{2}\right) = \underline{\hspace{1cm}} + \underline{\hspace{1cm}}$

2. 以下の下線部に適する文字を 内より選び、番号を記せ。ただし、同じ番号を何度使ってもよい。

① 0 ② 1 ③ a ④ e^t ⑤ e^{at} ⑥ $\cos t$ ⑦ $\sin t$

- (a) $\frac{d}{dt} e^{at} = \underline{\hspace{1cm}}$
 (b) $\frac{d}{dt} \sin t = \underline{\hspace{1cm}}$
 (c) $\frac{d}{dt} (e^t \cos t) = \underline{\hspace{1cm}} - \underline{\hspace{1cm}}$
 (d) $\frac{d}{dt} \log x = \underline{\hspace{1cm}}$

3. 以下の下線部に適する文字を 内より選び、番号を記せ。ただし、同じ番号を何度使ってもよい。また、 c_1, c_2, c_3 は定数である。

① e^{-t} ② e^{-2t} ③ e^{-3t} ④ te^{-t} ⑤ te^{-2t}
 ⑥ $e^{-t} \cos t$ ⑦ $e^{-t} \sin t$ ⑧ $e^{-2t} \cos t$ ⑨ $e^{-2t} \sin t$

- (a) $\frac{dx(t)}{dt} + 2x(t) = 0$ のとき、 $x(t) = c_1 \underline{\hspace{1cm}}$
 (b) $\frac{d^2x(t)}{dt^2} + 3\frac{dx(t)}{dt} + 2x(t) = 0$ のとき、
 $x(t) = c_1 \underline{\hspace{1cm}} + c_2 \underline{\hspace{1cm}}$
 (c) $\frac{d^3x(t)}{dt^3} + 6\frac{d^2x(t)}{dt^2} + 11\frac{dx(t)}{dt} + 6x(t) = 0$ のとき、
 $x(t) = c_1 \underline{\hspace{1cm}} + c_2 \underline{\hspace{1cm}} + c_3 \underline{\hspace{1cm}}$
 (d) $\frac{d^2x(t)}{dt^2} + 4\frac{dx(t)}{dt} + 4x(t) = 0$ のとき、
 $x(t) = c_1 \underline{\hspace{1cm}} + c_2 \underline{\hspace{1cm}}$
 (e) $\frac{d^2x(t)}{dt^2} + 4\frac{dx(t)}{dt} + 5x(t) = 0, x(0) = 0$ のとき、
 $x(t) = jc_1 \underline{\hspace{1cm}}$

4. $A = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}, B = \begin{bmatrix} 3 & 4 \end{bmatrix}$ のとき、以下の計算を行え。

ただし、下線部には符号(+または-), 内には0から9までの整数を記入せよ。

- (a) $AB = \begin{bmatrix} \underline{\hspace{1cm}} & \underline{\hspace{1cm}} \\ \underline{\hspace{1cm}} & \underline{\hspace{1cm}} \end{bmatrix}$
 (b) $BA = \underline{\hspace{1cm}}$
 (c) AB の行列式 =
 (d) AB の固有値 = ,

5. x, y, z 軸正方向の単位ベクトルを i, j, k としたとき、以下の計算を行え。ただし、下線部には符号(+または-), 内には0から9までの整数を記入せよ。なお、 $A = A_x i + A_y j + A_z k$ のとき、

$$\text{grad} \varphi = \frac{\partial \varphi}{\partial x} i + \frac{\partial \varphi}{\partial y} j + \frac{\partial \varphi}{\partial z} k$$

$$\text{div} A = \frac{\partial A_x}{\partial x} + \frac{\partial A_y}{\partial y} + \frac{\partial A_z}{\partial z}$$

$$\text{rot} A = \left(\frac{\partial A_z}{\partial y} - \frac{\partial A_y}{\partial z} \right) i + \left(\frac{\partial A_x}{\partial z} - \frac{\partial A_z}{\partial x} \right) j + \left(\frac{\partial A_y}{\partial x} - \frac{\partial A_x}{\partial y} \right) k$$

である。

- (a)

$$A = i + j$$

$$B = i + 2k$$

$$C = 2j + k$$

とする。このとき、

i. $j \times i = \underline{\hspace{1cm}} i \underline{\hspace{1cm}} j \underline{\hspace{1cm}} k$
 ii. $A \times B \cdot C = \underline{\hspace{1cm}}$

iii. $(A \times B) \times C = \underline{\hspace{1cm}} i \underline{\hspace{1cm}} j \underline{\hspace{1cm}} k$

iv. $A \times (B \times C) = \underline{\hspace{1cm}} i \underline{\hspace{1cm}} j \underline{\hspace{1cm}} k$

- (b) $\varphi = 3x^2z - y^2z^3 + 4x^2y + 2x - 3y - 5$ のとき、

i. $\text{grad} \varphi = (\underline{\hspace{1cm}} xz \underline{\hspace{1cm}} xy + 2) i + (\underline{\hspace{1cm}} yz^3 \underline{\hspace{1cm}} x^2 - 3) j + (\underline{\hspace{1cm}} x^2 \underline{\hspace{1cm}} y^2 z^2) k$

ii. $\text{div}(\text{grad} \varphi) = \underline{\hspace{1cm}} z \underline{\hspace{1cm}} y \underline{\hspace{1cm}} z^3 \underline{\hspace{1cm}} y^2 z$

- (c) $A = 2x^2zi - xy^2zj + 3yz^2k$ のとき、

i. $\text{div} A = \underline{\hspace{1cm}} xz \underline{\hspace{1cm}} xyz \underline{\hspace{1cm}} yz$

ii. $\text{rot} A = (\underline{\hspace{1cm}} z^2 \underline{\hspace{1cm}} xy^2) i + \underline{\hspace{1cm}} x^2 j \underline{\hspace{1cm}} y^2 z k$